



50周年を祝う会・開催報告

実行委員長・齊藤寛

の胸に「核兵器はいらない」としつかり根付いたような気がします。今年の夏は「ひろしまのピカ」の朗読をメインに企画するつもりです。記・古畑玲子

皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこまとお慶び申し上げます。昨年は会員をはじめ多くの皆様にお力添え、ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。本年も引き続きご理解、ご協力いただき、よろしくお願い申し上げます。実行委員会は昨年令和4年10月13日に、50名(ご来賓11名・友愛会所属会員39名)のご参加をいただき、「友愛会50周年を祝う会」を京成ホテル

ルミラマールにて開催いたしました。開催当日の朝方は大雨情報で心配いたしました。集合時間から、雨も上がり、ご出席された皆様も安堵の様子でしたので、安心してお待ちしております。お迎えすることが出来たので、厚意により、最上階の展望会場を提供いただき、眼下に美しい千葉市を眺めることが出来ました。「50周年を祝う会」にふさわしい雰囲気でありました。宇田川副実行委員

また、首都圏近郊の被爆者の会(日本被団協、神奈川県、埼玉、東京、山梨)から、心のこもったメッセージを頂き、会場に展示し、代表で日本被団協のメッセージを披露させていただきました。全てスケジュール通り進行することに、より、食事の時間も十分に、美味しくいただきました。お話しが続き、お互いに食事の合間「友愛会50周年のあゆみ」のスクリーン上映があり、テーブル

の胸に「核兵器はいらない」としつかり根付いたような気がします。今年の夏は「ひろしまのピカ」の朗読をメインに企画するつもりです。記・古畑玲子

また、首都圏近郊の被爆者の会(日本被団協、神奈川県、埼玉、東京、山梨)から、心のこもったメッセージを頂き、会場に展示し、代表で日本被団協のメッセージを披露させていただきました。全てスケジュール通り進行することに、より、食事の時間も十分に、美味しくいただきました。お話しが続き、お互いに食事の合間「友愛会50周年のあゆみ」のスクリーン上映があり、テーブル



Table A の皆さま

最後に「友愛会50周年を祝う会」は50周年を祝う会になりました。50周年を祝う会には、ご出席いただいた皆様がお帰りの際には大変良かったとお言葉をいただきました。喜んでいただくことが出来たこと、報告が来られたこと、皆様の協力、ご支援の賜と心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



Table B の皆さま

1年3月末から実行委員会を立ち上げて、コロナ禍の真只中、委員会メンバーは臨時を含め7回に及ぶ会議を重ねてきました。「千葉県原爆被爆者友愛会50周年のあゆみ」の作成担当の永山委員には大変な苦勞があったこと、事務局の会計担当を含まれ、全員が力を合わせての50周年でした。ありがとうございました。

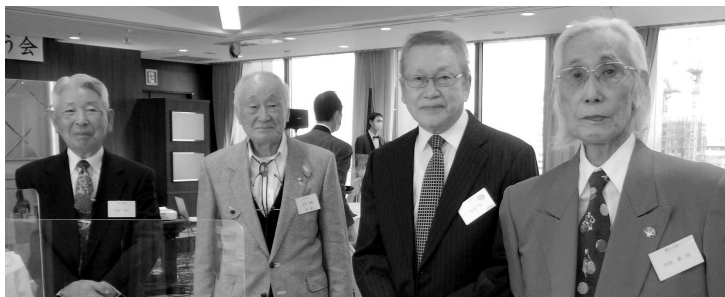


Table D の皆さま



Table C の皆さま



Table F の皆さま



Table E の皆さま



Table I の皆さま



Table H の皆さま



Table G の皆さま



Table J の皆さま

昨年11月22日、轟公民館で今年度第2回被爆者の語り伝え研究会が開かれ、17人の参加がありました。

柏市から初めて「今までは語ってこなかったが、若い人たちに伝えなくてはならない」という思いから、この「語り」を証言を志したという意欲を持っていた方が参加されました。

各会・個人の語り部報告では、コロナ感染の状況下でありながらもリモートを活用したりと色々な工夫をしながら、今年度は11月22日現在、56回の活動が報告されています。

続いて広島被爆者の重田忠治さんの証言を披露して頂きました。岡田千砂子さんのパワーポイントを駆使しての二人三脚の証言となりました。

地図や資料を用いた。深く心に残りました。重田さんも、お孫たちに伝えておきなればという思いがきっかけとなり、80歳を超えられたそうです。

被爆者の平均年齢が84歳を超えてしまっている。直接お話を聴ける訳ではないのですが、証言に立ち会った者として、何とかして語り伝えていかなくてはならないという思いを新たにしました。

被爆の語り伝え研究会報告



記・須田裕見子

令和4年度友愛会研修会 丸木美術館一日バス旅行のご案内

例年11月に開催しておりました研修会は、新型コロナウイルス感染拡大による二年間の中止を経て、本年度は翌年3月に延期のうえ、埼玉県東松山市にある「原爆の丸木美術館」と川越市の「川越大師喜多院」の見学を、一日バス旅行として開催することとなりました。

丸木美術館は、丸木位理・俊夫妻による共同制作「原爆の図」のために夫妻が建てた、自然豊かな都幾川沿いにある美術館です。昨年8月に県庁で開催された平和展で縮小版4点を展示したところ、原画を実際に見てみたいという声を多くいただきました。

私は以前、現地で夫妻の怒りが込められたような筆の跡を目にし、その制作の様子を思い浮かべると、重く、押し潰さ

令和4年度友愛会研修会 丸木美術館一日バス旅行のご案内

れるような気持ちになつたことを覚えていきます。しかし現地までの道程は、気軽に足を運べる距離ではないとも感じました。そこで、団体バスであれば皆さんの一度見てみたい、という声にこたえられるのではと思い、このバス旅行を鎌ヶ谷の荒木忠直さんと共に企画いたしました。また、桜の季節でもあることから川越大師喜多院もコースに含め、春爛漫の境内巡りを楽しんでいます。

開催日時は、令和5年3月30日(木)、JR「津田沼駅」または新東京線「新津田沼駅」最寄りの「千葉工業大学」前に、8時10分集合、解散は17時頃の予定です。

*今号のニュースにチラシと申込書を添えておきますので併せてご覧ください。

記 岡田千砂子

日本政府に核兵器禁止条約の署名・
批准を求める署名 担当から報告

12月現在、友愛会関連署名数は4598筆になっております。

署名を推進している千葉県の各団体の

会、略して「求める千葉の会」は、「ち

ば平和のつどい」として、勉強会を開き

ます。この署名活動

が、いかに重要な事

のか、いかにして署

名活動を進めてゆく

か、そして『核兵器

禁止条約』がいかに

重要な事か、より広

く理解を進めること

を目的として、勉強

会です。詳細は、同

封の『ちば平和のつ

どい』チラシを参照

願います。もう一度

改めて核兵器の残酷

フアクシミリ、住所やご氏名に、同上”

や””は認められ

ておりません。自筆署

名でお気持ちは反映さ

れます。

署名に関して、用紙

の形式が不明、集ま

た署名をどうするか等

の質問は、左記へフア

クシミリが便利です。

火曜日、金曜日には、

直接お電話下さい、当

番が対応します。

『千葉県原爆被爆者友

愛会

TEL/FAX : 043-253-

7768』

記・平山晃



筆啓上

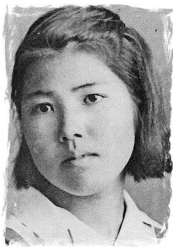
樋口恵子



二世として母の被爆体験を語り継ぐ

六年程前、腹話術で被爆講話をされて、母の経歴を是非伝えて欲しいとお話を頂き、高齢の母のことも考える、少しでも出来ること、それがあればと決心し、それ以来毎年小学校で母の被爆体験をお話しています。思い出したくはない、

出来れば忘れてしまいたい、苦しい思いを長年背負ったことを知り、胸が苦しくなる思いでした。母も同様で、長い間家族には話すことがなかつたので、私が詳しく知るようになって、語り部のお話しを聞いてから、何十年も経って、教員や学校等から依頼があり、話した時の原稿や、新聞の記事を読み、その頃のことを知りました。当時母は十七歳、挺身隊として爆心地から1キロ程の長崎三菱兵器製作所に勤務中、被爆し、九死に一生を得たものの、瞬間にして家族全員を失くしてしまいました。



みと苦しみのどん底に落とされる戦争は決して起こしてはならないものだ、と強く思います。今繰り返される人類のあやまちと核の脅威に、心痛める日々が続く中、決して忘れてはならない、被爆者を再び出してはならない、母の思いを、母の詩を朗読しながら子供たちにしっかりと伝えていきたいと思えます。

息ある者は肉親を捜し求めて、死がいの見つけ、そして焼いた人間を焼く煙が立ちのぼり、罪なき人の血が流れて、浦上川を赤くそめた。浦上のまちが見渡す限り、ガラガラ瓦だけに拾う人もない黒焦げの死体が続いて、戦争が終わった。ただ、父も母ももういない。兄も妹も、もどってはこない。人は忘れやすく、弱いものだから、ああ、まちを繰り返すだけ。このことだけは、忘れてはならない。繰り返してはならない。『』



⑩い間「ちひろカレンダー」の普及にご協力頂きありがとうございました。⑪愛会の被爆者(会員)も年々減少し、それによってカレンダーの要望も少なくなってきました。「ちひろ」の子ども達の絵を見ていると、こころが和みます。⑫まだまだ取り扱いたいとの思いもありました。⑬諸事情もあり、12月の合同会議で「今年を最後にちひろカレンダーの取り扱いを中止する」ことになりました。⑭い間のご愛用、普及に心からお礼申し上げます。

⑮後も「ちひろカレンダー」を手元に置きたいご希望の方は原水爆禁止千葉県協議会(千葉県・原水協 TEL 043・441・5093)にご相談ください。

「被団協」新聞(毎月6日発行)

定期購読を希望される方は、葉書又は封書で「お名前(又は団体名)・ご住所・電話番号・「被団協」新聞を〇年〇月から購読します。」と明記し、日本被団協までお送りください。

FAX、Eメールでも受付けています。

日本原水爆被害者団体協議会

〒105・0015 東京都港区芝大門1・3・5
 電話 03・3438・11897
 FAX 03・3431・2113

令和4年度 指定医療機関 被爆者健診日程

◆まくはり診療所健康センター(電話 043・276・1851)
 がん健診 一般健診 2月5日(日)

◆二和ふれあいクリニック(電話 047・448・7118)
 一般健診 がん検診 いずれも1〜3月 予定なし

令和4年度 保健所 被爆者健診日程

県内保健所では今年度は被爆者健診をコロナ禍のため実施することができません。受診希望者は県指定の医療機関で受診してください。

今回の友愛会ニュースは 4月1日付で発行します

ありがとうございました

寄付金をご恵贈戴きありがとうございました。友愛会は多くの皆様に支えられていることに感謝申し上げます。(令和4年12月12日現在)

- ◆10,000円 重田忠治、原爆と千葉空襲・美浜区写真展、児玉三智子、影山秀夫 ◆5,000円
- 松岡安子、岩本美津子、夏目侑子、重田忠治 ◆3,000円 谷本嘉雄、熊谷弘美 ◆1,450円
- 高野成子 (敬称略)

多額のご寄付に感謝します

「友愛会50周年を祝う会」へのご寄付(総額42万円)が多数の方より寄せられました。ご芳名を以下に記します(敬称は略させていただきます)：

上川渥、花井透、岡崎美保、児玉三智子、高橋稔・ふたわ診療所、佐久間実・千葉県生活協同組合連合会、阿部礼子・千葉県民主医療機関連合会、紙谷敏弘・原水爆禁止千葉県協議会、影山秀夫・千葉県平和委員会、本原康雄・千葉県労働組合連合会、松田まつえ・新日本婦人の会千葉県本部、秋本稔・千葉県健康友の会連合会、古澤祐子・千葉健生病院健康友の会、千葉健生病院、東友会、上野博之、清島勝、勝見清子、宇田川太江子、齊藤實、大野禮子、薩本雅子、岡本功・船橋二和病院健康友の会、田村博子、夏目侑子

* お祝い金は祝賀会にて使わせて頂きましたが、その余剰金「176,166円」が「50周年を祝う会実行委員会」より千葉県原爆被爆者友愛会に寄附金として贈与されました。

編集後記

★ コロナ禍続きも4年目を迎えようとしています。すっかりマスク姿の毎日が定着してしまいましたが、インフルエンザが加わらなければと願わずにはおられません。

★ 友愛会の活動は52年目に入ろうとしています。昨年秋の50周年記念の祝賀会も無事挙行できました。出席なさった方々は今号掲載の写真をご覧になつていろいろの思いが浮かんでおられるのではないのでしょうか。

★ このニュースも今号で137号となり、感慨深い思いがします。何とか更に続けられればと思います。

★ せめて今年には我が国政府も核兵器禁止条約を批准してくれるよう、この友愛会ニュースでも政府に呼びかけましょう。(IN)



友愛会 関連 URL